

食品放射能測定をご活用ください

今回は、給食や皆さんがお持ちになった食品がどのように測定されるか、検査の流れをご紹介します。家庭菜園で収穫した物も無料で測定しています。安心しておいしく食事が取れるよう、ご活用ください。

- ①**予約** 電話(放射能対策室☎内線1568、1569)で測定日時を予約してください。
予約受付日時 平日午前8時30分～午後5時15分

- ②**持ち込み** 野菜はよく洗い、泥・土を落として、食べる部分を5cm程度の小口切りにして1kg(1ℓ)分お持ちください。
食品の持ち込み時間は、予約日の午前9時～10時、午後1時～2時の指定された時間をお願いします。申請書に、住所、氏名、食品名などの記入をしていただきます。



皆さんからお預かりした食品は、以下のように測定します

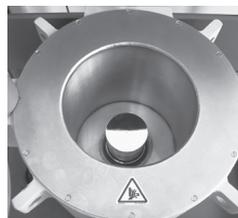
- ①**測定前処理** 測定は、市保健センター2階で行っています。測定する食品をフードプロセッサーで細かくします。



- ②**セッティング** 事前処理をした食品を「マリネリ容器」という特殊な形の1ℓ容器に入れます。密度が均一になるほど正確な測定が可能になります。



- ③**測定** 食品放射能測定器(NaIシンチレーション検出器)で測定します。厚生労働省の放射性セシウムスクリーニング法に基づき、検出限界値は25ベクレル/kg前後になるように設定しています。



- ④**結果** 30分程度測定し、放射性セシウムの検出状況を分析します。結果は当日に電話でお知らせし、翌日に結果表をお送りします。また、市ホームページで公表します。

測定した後の食品は、再利用しています

市役所公用車駐車場に設置してある、堆肥を作る木箱の中に測定後の食品を入れて混ぜ込み、発酵させ、生ごみ堆肥を作ります。堆肥はみどりのカーテンの肥料として使います。



内部被ばく検査スタート！ 91日間行います

7月7日、ホールボディカウンタ(全身測定装置)による放射線内部被ばく検査が始まりました。ひらた中央クリニック(福島県石川郡平田村上蓬田字大隅30)のご好意で、未就学児に同伴の保護者も無料で検査が受けられ、初日は保育園児と保護者計95人が検査を受けました。(検査はひらた中央病院内で行っています)

牛久出発から検査までの流れ



出発時に車内であいさつをする池辺勝幸市長



「ひらた中央病院」にバスで到着した皆さん



放射線内部被ばく検査の受け入れを行っている「ひらた中央病院」内へ移動



放射線内部被ばく検査の受け付け

市は、皆さんから「なぜ福島県なの?」「なぜ茨城県ではできないの?」など、さまざまな不安・疑問の声をいただきました。

この事業は、次世代を担う子どもたちの健康を守るために、そして、皆さんが安心して牛久で暮らしていただけるために行っています。目に見えない放射能ですが、検査をすることで具体的に自分の状況が分かります。また、個人の状況とともに、牛久市全体の状況も一定の推測をすることができます。平成24年4月以降、食品中の放射性セシウムの基準が厳しくなり食の安全性が高まってきています。今回の内部被ばく検査で体内から放射性セシウムが検出された場合は、数カ月後に再度測定して状況を確認するとともに、食品からの影響を探っていきます。

Q. なぜ茨城県ではできないの?

A. 茨城県にある機器は、どれも一般市民の検査用としては使われていません。

茨城県には、17台のホールボディカウンタ機器があります。しかし、茨城県が不安解消のための健康調査は行わない方針を打ち出していることもあり、どれも一般市民の検査用としては使われていません。日本全国のホールボディカウンタ機器を所有している病院などに問い合わせしていく中で、今回のひらた中央病院が牛久市を受け入れてくださることになりました。

ひらた中央病院は、遠方であることを除いては、病院周辺の空間線量は比較的低いこと、検査体制やフォロー体制が整い実績もあること、評価が東京大学や福島県立医科大学の支援によりしっかりしていること、病院の震災復興への理念が高いことなど、全て牛久市が協定を結ぶに足る状況でありますので、皆さんには安心してホールボディカウンタ検査を受けていただきたいと思います。



検査着に着替えて測定を受ける様子



ホールボディカウンタに入り、検査を受ける未就学児